

和闐、拜城等に産出す。

## 二 鑛業の今昔

金鑛

金鑛

和闐、伊犁、西湖、塔爾巴哈臺等は、最も早くより採掘し、産出も亦多しと稱す。西湖には、從來官營の金鑛二箇所あり。濶怕コバの金鑛も、共に多くの鑛夫を雇役して採掘するも、何れも策式にて、文明の利器を使用するに非ざれども、其の産出額は少なからざるものゝ如し、例せば和闐のみにて、一歳の産出約十萬兩に達すと。又濶怕にては、其の産出一年殆んど英貨八千磅パウンドに及ぶと云ふ。而して産金は、概ね印度に輸出す。其他西湖、羅布淖爾の金鑛産額頗る多しと聞けば、南北路に於ける産金額は、蓋し莫大の高に上るべし。

銅鑛

銅鑛

北路に於ては、既に乾隆四十一年(千七百七十六年)伊勒圖將軍始めて銅廠を伊犁の哈爾海圖山麓に設けて採掘したるが、最初は産額少なかりしも、同五十七年(千七百九十二年)に至て、伊寧將軍奏して之を哈什に轉じたり。又其後嘉慶年間(千七百九十六年)乃至千八百(千八百二十年)に、巴燕岱ホバクハイ或は呼巴海地方の三道河に移轉して、銳意鑛業に従事せしより、其の産出漸く多額に上りしが、爾後幾多の變遷を経て、現情の如何を詳かにせず。